

通勤時における新型インフルエンザ対策に関するアンケート調査の結果

—関西地区における通勤者の意識と対応—

平成 22 年 3 月 11 日

国土交通政策研究所

1. 目的

鉄道やバスなど公共交通機関において新型インフルエンザの感染拡大を防ぐためには、通勤時の混雑を緩和する必要があると考えられるが、そのためには、通勤者ひとりひとり、また、企業や団体の取り組みが、社会全体として積み重ねられる必要がある。

このアンケート調査は、通勤時の新型インフルエンザ感染防止策の検討に役立てていくため、**昨春、新型インフルエンザ A/H1N1 の流行がいち早く確認された関西地区において、通勤者がどのように対応したか、強毒性の新型インフルエンザの流行を想定した場合、通勤混雑に対してどのような意識をもっているかについて調査したものである。**

2. 調査概要

【対象者】 次の 3 条件を満たす人を対象とした

- ①近畿圏^{注)} に居住している人 注) 平成 17 年度大都市交通センサスの調査対象区域
- ②大阪市内を勤務先としている人
- ③通勤手段として鉄道・バスを主に利用する人

【調査方法】 インターネットアンケート

【調査期間】 平成 21 年 12 月 4 日～12 月 8 日 (2,000 サンプル)

3. 結果のポイント

- ・昨春の新型インフルエンザ発生に対する対応について過剰反応だったと思うかどうかについては、意見（評価）が割れた。
- ・今般流行した新型インフルエンザと強毒性の新型インフルエンザとの違いについては、過半数の人が認識しているものの、「あまり知らない」、「知らない」とする回答も 4 割ある。
- ・強毒性の新型インフルエンザの流行を想定したとき 3 人に 2 人が公共交通の通勤混雑を避けたいと思っているが、大幅な時差通勤等通勤混雑緩和につながる行動をとるには、勤務先からの指示等が必要とする回答が 8 割に達した。

一方、事業者は新型インフルエンザの発生時にどのような対応をとったか、強毒性の新型インフルエンザの流行を想定してどのように備えているか等について大阪市内の事業所を対象にアンケート調査を現在実施しているところである。

1) 新型インフルエンザ A/H1N1 発生時（昨年5月頃）の対応

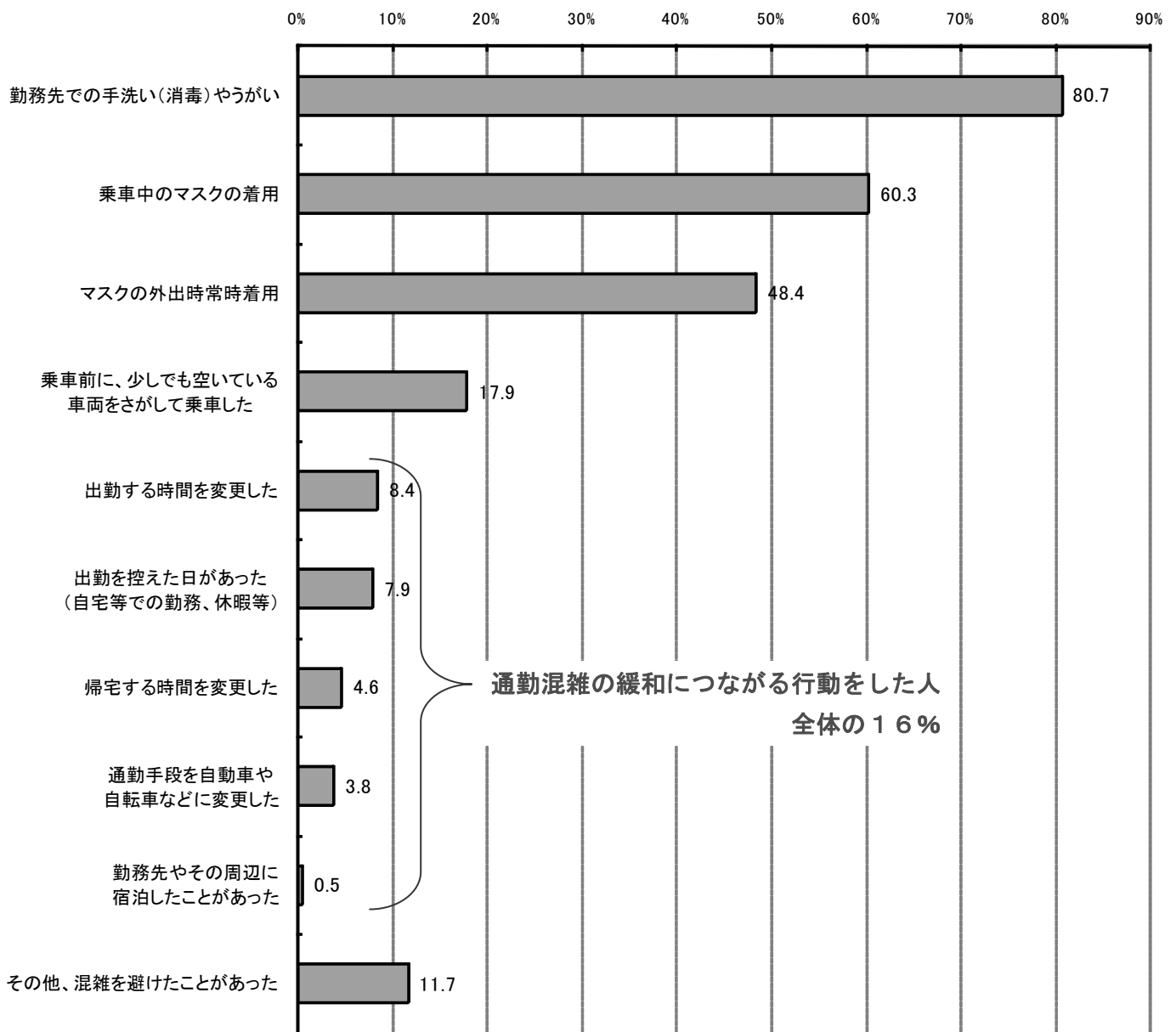
問1 平成21年5月に新型インフルエンザの発生が報じられた当初、通勤で公共交通機関を利用する時、あなたが感染防止のため行なったことをお答えください。（各項目について「あり」・「なし」を選択）。

○新型インフルエンザ A/H1N1 の発生時に通勤者が公共交通機関を利用する際に行なった感染防止策は、「勤務先での手洗い（消毒）やうがい」81%、「乗車中のマスクの着用」60%、「マスクの外出時常時着用」48%であった。

○「乗車前に、少しでも空いている車両をさがして乗車した」とする答えも18%あった。

○通勤混雑の緩和につながる行動をした人は、全体の16%であった。

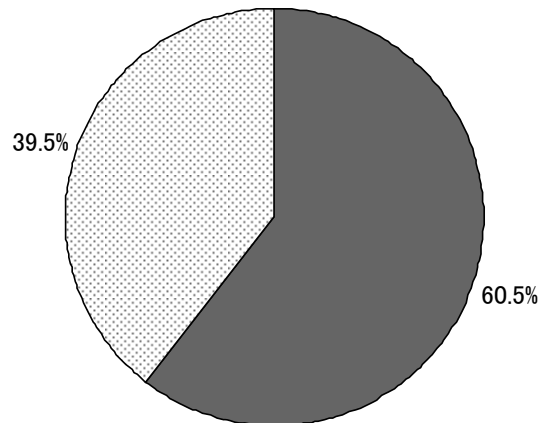
図1 通勤での公共交通機関利用時に行った感染防止策



問2 感染防止策について、勤め先から指示や勧めはありましたか。(ひとつだけ)

○問1で通勤混雑の緩和につながる行動をした人のうち、6割の人が勤務先からの指示や勧めに基づいて行動していた。4割の人は勤務先からの指示や勧めはなかったが、自主的に判断して行動した。

図2 感染防止策に関する勤務先の指示の有無

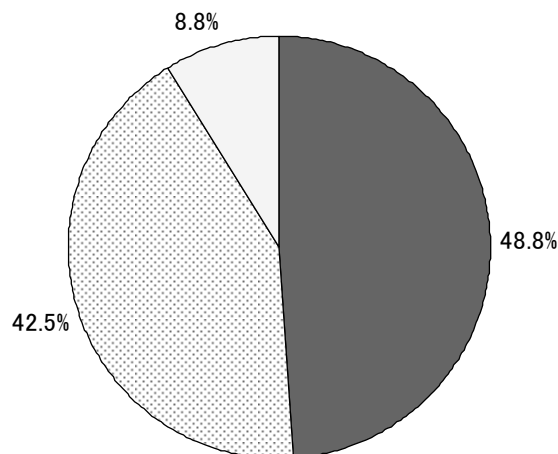


■ 勤務先からの指示や勧めがあった □ 勤務先からの指示や勧めはなかったが、自主的に判断した

問3 本年5月頃の関西地区での新型インフルエンザ対応（個人の対応、企業の対応、学校の対応、報道のされ方等）について、全般的にどう思いますか。(ひとつだけ)

○「過剰な反応だったと思う」人が49%、「脅威の程度がわからなかったのだから過剰とは思わない」人が43%、「どちらとも言えない」と答えた人が9%と、評価（意見）が割れた。

図3 関西地区での新型インフルエンザ対応の評価



■ 過剰な反応だったと思う
▨ 脅威の程度がわからなかったのだから過剰とは思わない
□ どちらとも言えない

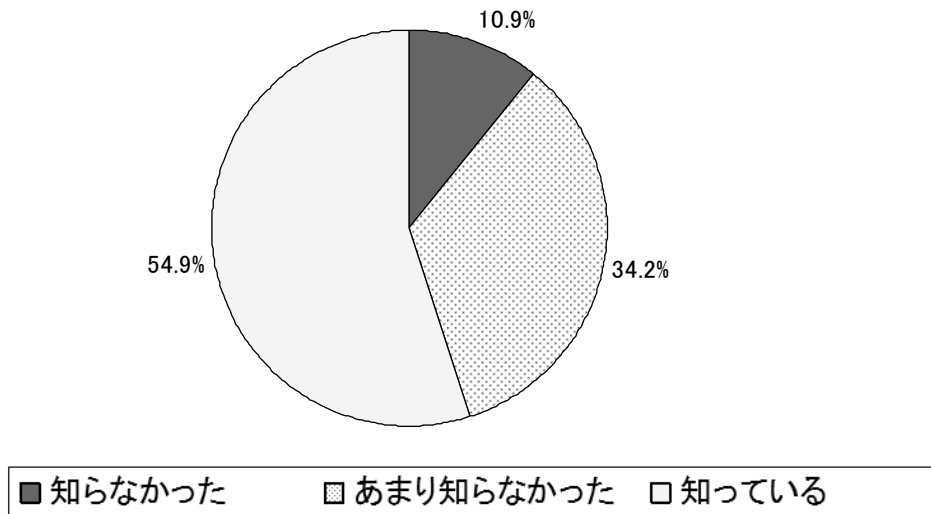
2) 強毒性の新型インフルエンザが大流行する場合の対応

本年5月に国内で患者が確認され、現在流行しているのは呼吸器感染が中心の新型インフルエンザ A/H1N1 です。しかしながら、感染力が強く致死率が非常に高くなるのが危惧されている強毒性の新型インフルエンザ H5N1 が発生する可能性は依然として存在します。

問4 上記の囲いの内容について、知っていましたか。(ひとつだけ)

○「知っている」人が過半数の55%であったが、一方、「知らなかった」と「あまり知らなかった」もあわせて45%あった。

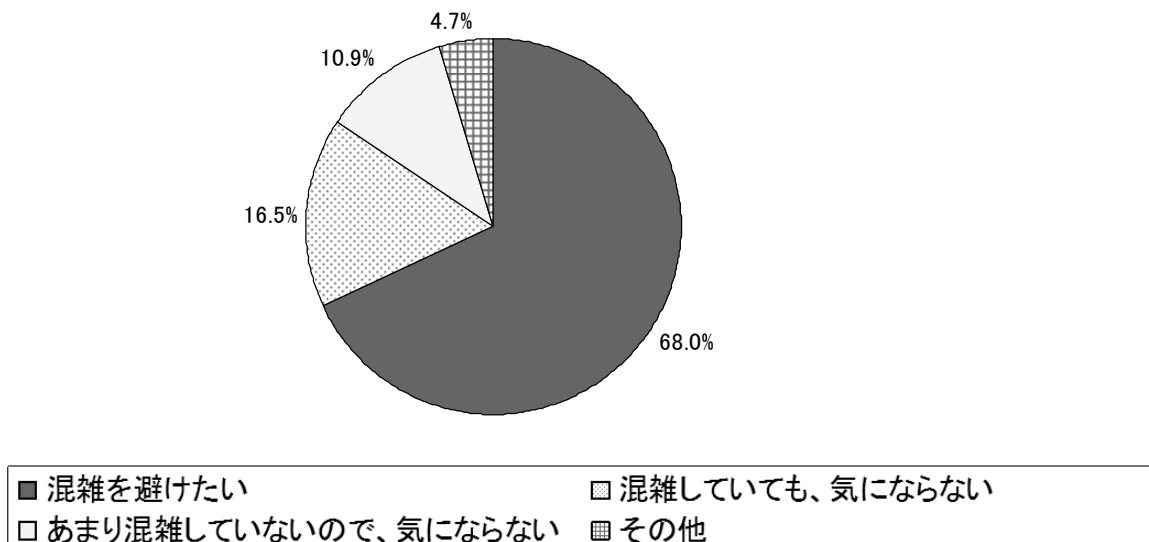
図4 強毒性新型インフルエンザの認知度



問5 もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから大流行するとわかった場合、あなたは通勤時の混雑をどのように考えますか。(ひとつだけ)

○強毒性を想定すると、通勤時に「混雑を避けたい」人が全体の68%となっている。

図5 強毒性新型インフルエンザ大流行時の通勤時の混雑への認識

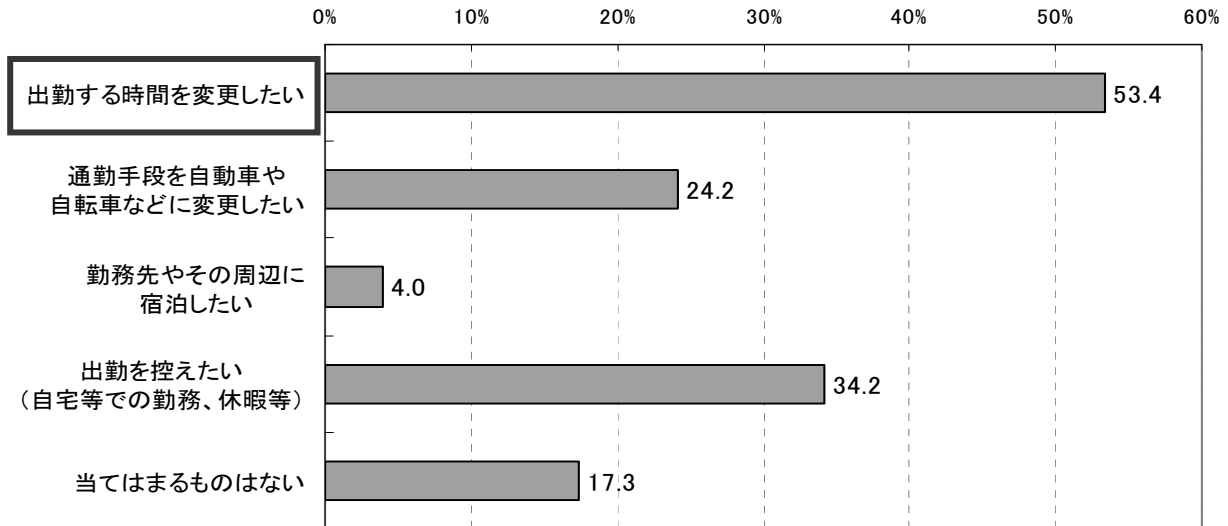


問6 もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから大流行するとわかった場合、あなたは通勤時の混雑をさけるため、どのようなことを行いたいですか。該当するものを全てお答えください。(複数選択可)

※ 問5で、「混雑を避けたい」と回答した人(全体の68%)を対象に集計

○ 「出勤する時間を変更したい」53%、「出勤を控えたい」34%であった。

図6 強毒性の新型インフルエンザ大流行時に通勤時の混雑回避のために行いたいこと



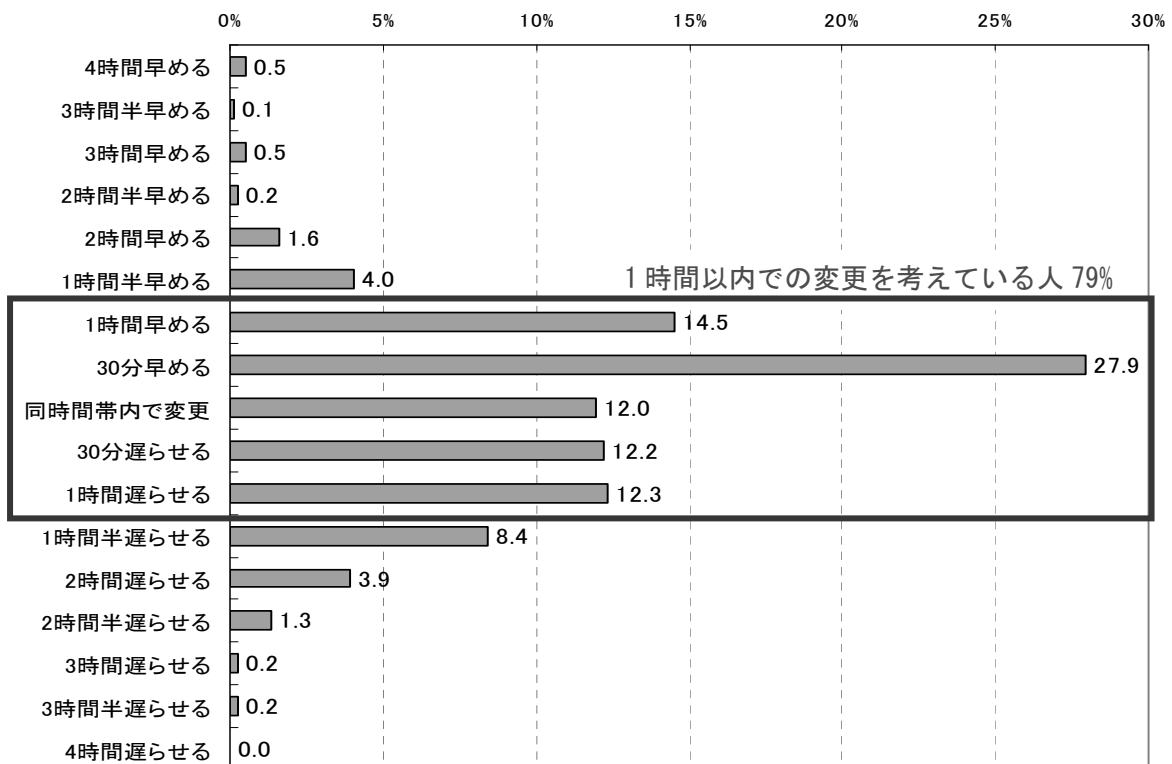
問7 何時頃に勤め先に到着するようにしたいですか。(ひとつだけ)

※ 問6で「出勤する時間を変更したい」人が回答

○ 通常時の出勤時間と比較して変更幅を計算した結果、多かったのは、「30分早める」の28%、「1時間早める」の15%、「1時間遅らせる」の12%であった。

「出勤する時間を変更したい」人の8割が、前後1時間以内での変更を考えており、1時間を超える時差出勤を考えている人は2割にとどまっている。

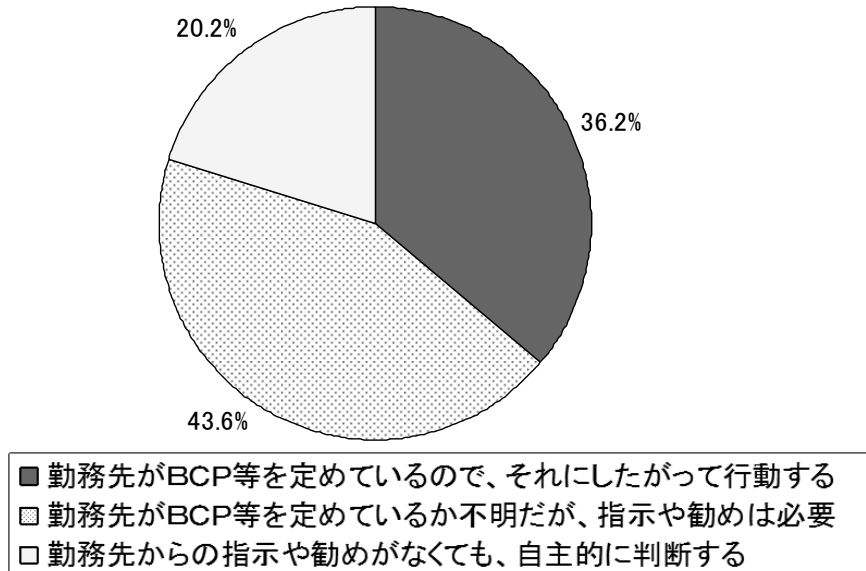
図7 出勤時間帯の変更幅(出勤する時間を変更したい回答者のみ)



問8 出勤時間や通勤手段の変更、勤務先やその周辺での宿泊、自宅等での勤務等を行う場合、勤務先からの指示や勧めが必要ですか。(ひとつだけ)

○「勤務先からの指示や勧めがなくても自主的に判断する」人は 20%にとどまり、80%の人が勤務先からの指示や勧めが必要と考えている。

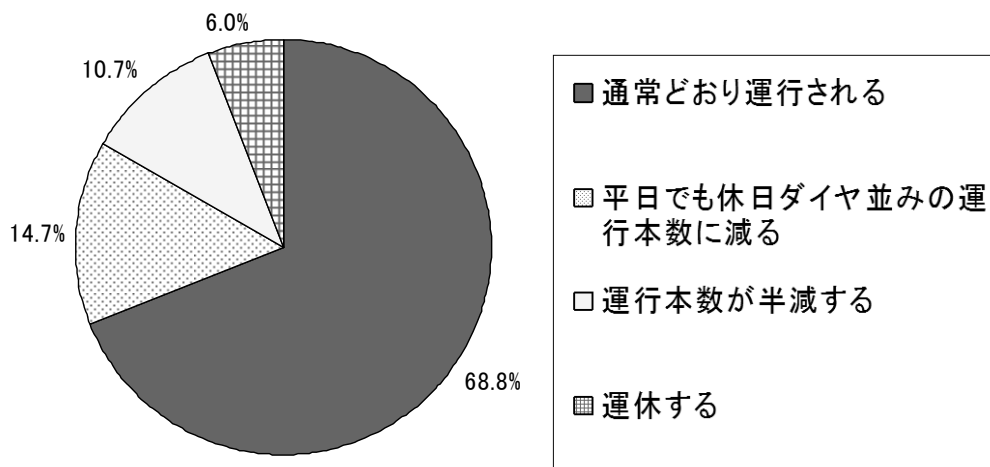
図8 強毒性新型インフルエンザ大流行時の勤務先の指示等の必要性



問9 もし、強毒性の新型インフルエンザが流行した場合、鉄道・バスの運行にどのような影響が出るとお考えですか。(ひとつだけ)

○「通常通り運行される」と思っている人が 69%であり、鉄道・バスの運行に影響が出ると思っている人は合わせて 31%であった。

図9 強毒性新型インフルエンザ大流行時の公共交通機関への影響の認識



問10 公共交通機関で、強毒性の新型インフルエンザの感染を防ぐためには、社会全体としてどのような取り組みが必要とされますか。必要だと思うものを全てお答えください。（複数選択可）

○公共交通機関で、強毒性の新型インフルエンザの感染を防ぐために必要だと考えている取り組みで多いものは、「手洗い・うがいをする」が76%、「咳エチケットを守る」が75%、「乗車中のマスクの着用」が72%であった。

○また、通勤混雑の低減につながる取り組みについては、「出勤を控える」35%、「大幅な時差通勤を行なう」32%、「乗車中、対人距離を確保する(1~2m)」24%、「通勤手段を自転車や自動車に変更する」17%であった。

○なお、問10の「社会全体」として必要と思う取り組みに対しては、「出勤を控える」35%が「大幅な時差通勤を行う」32%を上回り、問6「個人」が通勤混雑を避けるために実施したい行動として「出勤する時間を変更したい」53%、「出勤を控えたい」34%と回答と順位が逆転している。

この要因は、

・問6では「出勤する時間を変更したい」と回答した「個人」の想定している出勤時間の変更幅は1時間前後が多く、「大幅」とは言いがたいこと。

・また、個人では出勤せざるをえないと思う一方で、社会全体で感染拡大防止に取り組むためには出勤を控えるしかないと考える人が多いこと等が考えられる。

図10 公共交通機関での感染防止のために必要な社会の取組

